

キャラクター名
秋 葉華 (あき ようか)

プレイヤー名

シンドローム	ノイマン オルクス	ワークス	水商売	カヴァー	UGN諜報員
オプション		年齢	15	性別	女の子
覚醒	償い	衝動	妄想	初期侵食率	37 %
出自	犯罪者の子	経験	汚れ仕事	邂逅	自身

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	28
肉体	0	0	1			1	行動値	14
感覚	1	0	0	3		4	(非装備時)	14
精神	4	1	0	1		6	戦闘移動	19
社会	3	0	0			3	全力移動	38

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC			交渉		1
回避			知覚	1		意志	7	1	調達		3
運転:			芸術:	4		知識:	3		情報: 噂話		1
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
使用人	
思い出の一品	
ネームプレート(番号札)	
携帯電話	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
四季稜鹿	SロイスP	慕情	N	不安
小雨	P	遺志	N	偏愛
かなめ	P	信頼	N	猜疑心
カレハ	P	連帯感	N	隔意
斬刃	P	信頼	N	劣等感
奏来	P	尊敬	N	疎外感
	P		N	

最大財産P: 12 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
戦術	5	6	セット					
効果:	メジャーのダイスを+Lv個する							
リカバリー	1	2	セット					
効果:	対象の暴走以外のバステを治す							
妖精の手	3	4	オート					
効果:	対象の目で目一つ10にする 2回 判定一回につき一回							
勝利の女神	5	4	オート				100	
効果:	Lv×3を達成値にプラスする							
縮地	2	2	オート					
効果:	戦闘、全力移動の時に宣言、シーンの任意の場所に行ける							
力の法則	3	4	オート				100	
効果:	ダメージD+Lv+1							
支配の領域	2	6	オート					
効果:	出目をひとつ1にする 回							
要の陣形	3	3	メジャー					シンドローム
効果:	対象を3体に変更する 回							
未知なる陣形	1	※5						リミット
効果:	3体から5体にする							
導きの花	5	2	メジャー					
効果:	対象が次に行うメジャー判定の達成値をLv×2する							
アドヴァイス	1	4	メジャー					
効果:	対象が次に行うC値-1、+LvD							
弱点看破	3	3	メジャー					
効果:	そのラウンドの間攻撃力+Lv×3							
天性のひらめき	2	4	メジャー					
効果:	戦闘以外の判定で使える							

PL:てんそく
 イメージキャラ: 秋静葉
 私の親は人殺しの罪をもったまま殺された。
 その罪自体、理不尽に突きつけられただけの冤罪だったのに。
 死んでしまったらもう何も言えない、…それに親を殺したの私だ…
 あの日は近所の本屋に行った帰りだったと思う、スーツを着た人に道を聞かれた。
 それは、その頃の私でもわかる場所だった。だからその場所に案内してあげようとした。
 その時に何かを口にあてられ私は意識を失い、次に気がついたときは柱に繋がれていた。
 私は捕まったんだ、それは私の親を捕まえるための人質にされたんだ。
 親は私を助けに来た…けど…目の前で殺された。誘拐犯が話しているのを聞いていたけど、埋め合わせらしい
 誰かが侵した罪の代わりに私の親は殺されたんだ。
 それをきっかけに、私は今の力を身につけてしまった。
 その時から私はUGNに保護とは名ばかりの強制連行された。
 もうひとりの子と共に…(どこか私を重ね合わせてしまうそんな気がした)
 それからはずっと脅され、汚れ仕事もさせられ今まで怯えながら生きている
 今も時々考えてしまう、あの時案内をしようとしなかったら、私は親を殺されなかったかもしれない。
 変な考えかもしれないけど、一緒に死ねたかもしれないのにな。
 ……もうあの頃には戻れない、だから私はあの子とともに生きながらえなければいけないんだ。
 そしたら、いつかは親の墓を立てれる日がきっと来るから……あ母さん、お父さん見守っててください。

